

2016年のできごと

**1月6日 外国人にわかりやすい地図表現
検討会報告書を取りまとめた**

外国人にわかりやすい地図を作成するための標準として、地図に記載する地名等の英語表記ルール及び外国人にわかりやすい地図記号の検討を進め報告書を取りまとめた。

**1月7日 企画展「第19回全国児童生徒地
図優秀作品展」を開催**

地図と測量の科学館ほか2会場において、企画展「第19回全国児童生徒地図優秀作品展」を開催した。本企画展は、全国各地で開催されている児童生徒の地図に関する作品展から選ばれた優秀作品を展示するもので、152作品を展示した。また、国土交通大臣賞、文部科学大臣賞の表彰式が1月14日に国土交通本省で行われた。

1月8日 西之島の計測結果を公開

平成27年12月9日に測量用航空機「くにかぜIII」により西之島の空中写真を撮影し、面積、体積、最高標高を計測し、それらの結果等を公開した。

1月22日 第17回測量行政懇談会を開催

関東地方測量部において、第17回測量行政懇談会（委員長：清水英範東京大学大学院教授）を開催した。本懇談会では、測量技術者の確保・育成方策、測量・地図分野の広報の強化などを議論し、本懇談会です承された「測量技術者育成検討部会報告書」を、委員長から「測量行政懇談会報告書～国土を測り未来を創る測量技術者の確保を目指して～」として、国土地理院長に手渡された。

**1月28日 第13回北海道測量技術講演会を
開催**

北海道地方測量部は、(公社)日本測量協会と共に札幌第1合同庁舎講堂（北海道札幌市）において、測量の日記念行事として、第13回北海道測量技術講演会を開催した。

本講演会では、「防災・減災に向けた地理空間情報の活用社会へ」をテーマとして最新の取組を紹介した。

**2月6日 2016年2月6日台湾の地震に伴
う地殻変動を解析**

2月6日に台湾でMw6.4 (USGS)の地震が発生し、地震に伴う地殻変動を把握するため、地球観測衛星「だいち2号」(ALOS-2)に搭載された合成開

ロレーダー (PALSAR-2) のデータを使用して SAR 干渉解析を行った。

2月22日 第210回地震予知連絡会を開催

関東地方測量部において第210回地震予知連絡会が開催された。全国の地震活動、地殻変動等のモニタリングについての報告が行われ、重点検討課題として「予測実験の試行02」に関する報告・議論が行われた。また次回の重点検討課題「余効変動と粘弾性—日本列島広域地殻活動予測に向けて—」に関する趣旨説明等が行われた。

**2月24日 「平成27年全国都道府県市区町
村別面積調」を公表**

平成27年10月1日現在の日本国土の面積を取りまとめた「平成27年全国都道府県市区町村別面積調」を公表した。平成27年の国土面積は、平成26年の377,972.28km²から377,970.75km²になった。

**2月29日 平成27年度国土地理院コンプラ
イアンス・アドバイザー委員会
を開催**

国土地理院本院において、平成27年度国土地理院コンプライアンス・アドバイザー委員会を開催した。本委員会では、平成27年度国土地理院コンプライアンス報告書(案)及び平成28年度国土地理院コンプライアンス推進計画(案)について、報告及び審議が行われた。

**3月9日 地形分類図をワンクリックで確
認できる形で地理院地図より公
開**

これまで公開していた地形分類図を、新たな形式で地理院地図より公開した。この公開により、身の回りの土地の成り立ちとその土地が本来持っている自然災害リスクを、誰もがワンクリックで確認できるようになった。

**3月14日 「地理院地図」の3D表示機能を
拡充**

地形図や空中写真に加え、地形分類や災害情報などその他の情報も3D表示できるよう機能を拡充した。

**3月15日 ギャラリー展「地図と私たち」を
～10月2日 開催**

地図と測量の科学館において、ギャラリー展「地

図と私たち」を開催した。本ギャラリー展では、地図の便利な使い方や読み方などを紹介した。

3月16日 国土地理院ランドバード (GSI-LB) を発足

無人航空機 (UAV) を活用した測量を推進するため、「国土地理院ランドバード (GSI-LB)」を発足し、発足式とデモフライトを行った。GSI-LB は、i-Construction に関する測量に対応した必要な指導・助言を行えるよう、UAV に精通した技術者を育成するほか、災害時には、国土地理院が自ら現場で必要な撮影や測量を行う。

3月16日 国土地理院 i-Construction 推進本部を設置

測量分野における i-Construction を推進するため、「国土地理院 i-Construction 推進本部」を設置し第1回会議を開催した。

3月24日 西之島の計測結果を公開

3月3日に UAV により西之島の空中写真を撮影し、面積、体積、最高標高を計測し、それらの結果等を公開した。

3月25日 第1回「国土を測る」意義と役割を考える懇話会を開催

関東地方測量部において、「国土を測る」意義と役割を国民にわかりやすく伝えるための方策を議論するために、『国土を測る』意義と役割を考える懇話会－『伝える』から『伝わる』へ－を新たに設置し、第1回「国土を測る」意義と役割を考える懇話会を開催した。

3月29日 地理院地図 Globe を試験公開

地理院地図 Globe を試験公開し、「誰でも・簡単に・日本全国どこでも」地理院地図を地球儀のように、シームレスに3次元で表示することが可能となった。

3月29日 立体地図サイトを公開

地理院地図 3D、触地図サイトを統合して立体地図サイトを公開した。

3月30日 「UAV を用いた公共測量マニュアル (案)」及び「公共測量における UAV の使用に関する安全基準 (案)」を公表

測量分野における i-Construction を推進するため、UAV が広く建設・測量現場で利用されることを目標に、「UAV を用いた公共測量マニュアル

(案)」及び「公共測量における UAV の使用に関する安全基準 (案)」を作成し公表した。

3月30日 地名等の英語表記ルールと外国人向け地図記号を決定

訪日外国人旅行者の円滑な移動などの環境整備を図り、観光立国実現や2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の円滑な開催などに資するため、地図に記載する地名等の英語表記ルール及び外国人向けの地図記号15種類を決定した。

3月30日 「日本の典型地形ウェブサイト」をリニューアル

日本の多様な地形を成因別に194の地形項目に分け、それぞれの地形項目の特徴を有する代表的な地形 (全国約3,900箇所) について地理院地図と連携させ、具体的な場所と地形の特徴を一体的に理解しやすいようにウェブサイトをリニューアル公開した。

3月31日 公共測量作業規程の準則の一部改正

測量技術の進展及び利用環境、利用者のニーズを踏まえ、「電子基準点のみを既知点とした基準点測量」の適用拡大、「車載写真レーザ測量」の新規追加、「多言語表記による図式」の新規追加などを行い、公表した。

4月1日 ガリレオの信号及びGPSの新たな周波数信号 (L5) を含むデータの提供を開始

ガリレオ及びGPSの新たな周波数信号 (L5) を受信する準備が整った786点の電子基準点から、ガリレオの信号やGPSのL5信号を含む観測データの提供を開始した。これにより、都市部や山間部等、測量できる場所が広がると期待され、また今までより短い観測時間で高精度な測量を行うことができるようになる。

4月15日 平成28年(2016年)熊本地震に伴う地殻変動を観測

4月14日21時26分に熊本県熊本地方で発生した地震 (M6.5, 最大震度7) 及び4月15日00時03分に発生した地震 (M6.4, 最大震度6強) に伴う地殻変動を、電子基準点で観測した。

4月16日 平成28年(2016年)熊本地震に伴う地殻変動を観測

4月16日01時25分に熊本県熊本地方で発生した地震 (M7.3, 最大震度7) に伴う地殻変動を、電

子基準点で観測した。

4月14日 平成28年(2016年)熊本地震に
~4月16日 伴う断層近傍の地殻変動を解析
地球観測衛星「だいち2号」(ALOS-2)に搭載された合成開口レーダー(PALSAR-2)のデータに、MAI(Multiple Aperture Interferometry)法を適用した結果、標準的なSAR干渉解析では捉えられなかった断層近傍の地面の動きが明らかになった。

5月1日 石岡測地観測局の本格運用を開始

世界最高水準の1mmの精度で地球上の正確な位置を決定するため、茨城県石岡市に最先端の観測施設(石岡測地観測局)をアジアで初めて整備し、5月1日に本格運用を開始した。

5月9日 平成28年(2016年)熊本地震に伴う地殻変動を観測

4月18日20時41分に熊本県阿蘇地方で発生した地震(M5.8,最大震度5強)及び4月29日15時09分に大分県中部で発生した地震(M4.5,最大震度5強)に伴う小さな地殻変動を、電子基準点で観測した。

5月18日 第211回地震予知連絡会を開催

関東地方測量部において第211回地震予知連絡会が開催された。全国の地震活動、地殻変動等のモニタリングについての報告が行われ、重点検討課題として「平成28年(2016年)熊本地震」に関する報告・議論が行われた。

5月18日 日本水準原点を一般公開

関東地方測量部は、(公社)日本測量協会と共に、我が国の土地の高さの基準となっている日本水準原点を一般公開した。あわせてパネルの展示やミニ講座を開催して、原点や水準測量等の紹介を行った。

5月19日、 熊本地震に伴い測量成果を停止
6月16日 した電子基準点の測量成果を改定し、公表

5月19日に公表した電子基準点37点の測量成果に加え、電子基準点「千丁」(熊本県八代市)の測量成果を改定し、6月16日に追加公表した。

5月19日 「測量の日」記念講演会を開催

「測量の日」四国地区推進協議会は、ホテルクレメント徳島(徳島県徳島市)において、「測量の日」記念講演会を開催した。

5月22日 第2回「国土を測る」意義と役割を
考える懇話会を開催

国土地理院本院において、第2回「国土を測る」意義と役割を考える懇話会を開催した。本懇話会では、国土地理院の取組を「はかる」「えがく」「まもる」の三つの役割に整理した上で、その役割の基本と具体的な施策について委員へ紹介し、議論が行われた。

5月30日 「測量の日」パネル展を開催
~6月3日

沖縄支所は、「測量の日」沖縄県実行委員会と共に沖縄県庁県民ホール(沖縄県那覇市)において、「暮らしを支える測量と地理空間情報」をテーマに「測量の日」パネル展を開催した。

5月31日 平成28年度熊本地震復旧等予備費が決定

平成28年度熊本地震復旧等予備費使用が閣議で決定され、国土地理院関連分は、測地基準点の復旧測量として507百万円が計上された。

6月2日 地図パネル展を開催
~6月4日

北陸地方測量部は、「アオッサ」(福井県福井市)において地図パネル展を開催し、「電子地形図25000」、福井市周辺の今昔のパネル、災害対応・防災関連のパネル等を展示した。

6月3日 平成28年度「測量の日」における
功労者感謝状の贈呈

測量・地図に対する国民の一層の理解と関心を高めることを目的として、測量・地図に関する普及・啓発に顕著な功績のあった1個人・2団体に、感謝状を贈呈した。

6月3日 「測量の日」記念講演会を開催

中部地方測量部は、「測量の日」中部地区連絡協議会と共に、「じゅうろくプラザ」(岐阜県岐阜市)において、「測量の日」記念講演会を開催した。

6月4日 第28回「測量の日」記念-地図と
~6月5日 測量のミニフェスタ-を開催

東北地方測量部は、仙台市科学館(宮城県仙台市)において、「第28回「測量の日」記念-地図と測量のミニフェスタ-」を開催し、パネル展示や地図教室、測量体験等を行った。

6月6日 国土交通省ハザードマップポータルサイトをリニューアル

地図上での位置指定や住所入力により、任意地点の自然災害リスクをまとめて確認できるようになった。またスマートフォン等のGPS機能を利用し、現在いる位置の防災に役立つ様々な情報を簡単に確認できるようになったほか、津波浸水想定区域を新たに掲載した。

6月7日 「地理院地図パートナーネットワーク会議」を開催

地理院タイルをはじめとする地理空間情報の活用推進のため、国土地理院、受託開発者、ツール提供者が参加する地理院地図パートナーネットワーク会議を開催し、情報共有や意見交換を実施した。

6月7日 「測量の日」記念フェア2016を開催

近畿地方測量部は、(一社)大阪府測量設計業協会及び大阪土地家屋調査士会と共に、大阪合同庁舎第4号館(大阪府大阪市)において、「測量の日」記念フェア2016を開催した。本記念フェアでは、第20回近畿地方測量技術発表会及びパネル展、測量機器・システム展が行われた。

6月8日 第45回国土地地理院報告会を開催

日経ホール(東京都千代田区)において第45回国土地地理院報告会を開催した。国土地理院からの報告のほか、関西大学社会安全研究センター長、人と防災未来センター長の河田恵昭氏による特別講演が行われた。本報告会には540名の参加があった。

6月8日 地理教育に関する報告書を公開

地理教育の課題や具体的な取組について取りまとめた報告書「地理教育の支援に向けた課題の整理と具体的な取組への提言～国土の豊かな恵みを次の世代に引き継ぐために～(案)」を公開した。

6月8日 「くらしと測量・地図」展を開催～6月10日

関東地方測量部は、「測量の日」東京地区実行委員会の事務局として、新宿駅西口広場イベントコーナー(東京都新宿区)において、「くらしと測量・地図」展を開催した。「楽しみながら地図を読み、大地を測る！」をテーマに、関連する地図・空中写真・関連資料の展示・説明を行った。

6月14日 平成28年度熊本地震復旧等予備費が決定

平成28年度熊本地震復旧等予備費使用が閣議で決定され、国土地理院関連分は、復旧のための地理

空間情報(地図・写真図)の整備として145百万円が計上された。

6月21日 第21回中国地区測量技術講演会を開催

中国地方測量部は、「測量の日」中国地区連絡協議会と共に、広島県民文化センター(広島県広島市)において、第21回中国地区測量技術講演会を開催した。

6月24日 「測量の日」記念講演会を開催

九州地方測量部は、(一社)福岡県測量設計コンサルタント協会と共に、福岡県中小企業振興センター(福岡県福岡市)において、「測量の日」記念講演会を開催した。

7月3日 「測量の日」特別企画～遊んで学んで地図と測量の世界2016～を開催

地図と測量の科学館において、「測量の日」特別企画を開催し、国土地理院が提供している様々な地理空間情報をわかりやすく紹介するとともに、子どもから大人まで楽しみながら地図と測量に関する体験ができる企画を行い、1,700人を超える来場者があった。

7月3日 企画展「地図をよむ」を開催～9月11日

地図と測量の科学館において、企画展「地図をよむ」を開催した。「地図をみる(ながめる)」から、地図の見方を学ぶ「地図をよむ」、そして、自分の知りたい情報を「地図から読み解く」という力を深めてもらうことを目的として開催した。

7月5日 ホームページに「地理教育の道具箱」を開設

教育支援ポータル「地理教育の道具箱」を国土地理院ホームページに開設した。

7月7日 「測量の日」記念講演会を開催

「測量の日」四国地区推進協議会は、サン・イレブン高松(香川県高松市)において、「測量の日」記念講演会を開催した。

7月14日 「国土地理院の取り組む教育支援」説明会を開催

関東地方測量部において、「国土地理院の取り組む教育支援」説明会を初めて開催した。教科書・教材出版社19社が参加し、国土地理院から国土地理院の情報の取得や利用方法等について説明を行う

とともに、意見交換を行った。

7月15日 第18回測量行政懇談会を開催

関東地方測量部において、第18回測量行政懇談会（委員長：清水英範東京大学大学院教授）を開催した。本懇談会では、基本政策部会において取りまとめられた「政府における次期基本計画の策定に向けた国土地理院の対応」が報告され、当計画への基本的な考え方が議論された。

7月19日 優良業務並びに優良技術者表彰式を実施

平成27年度に完了した国土地理院発注の測量業務実施者のうち、特に優れた成績を収めた優良業務並びに優良技術者に対し、優良業務4件、優良技術者3名の院長表彰を行った。

7月27日 第51回海岸昇降検知センター総会を開催

関東地方測量部において、第51回海岸昇降検知センター総会を開催した。本総会では、気象庁、海上保安庁海洋情報部、国土交通省港湾局、国土地理院及び海岸昇降検知センター事務局から、平成27年度事業報告及び平成28年度実施計画の説明及び研究成果等の発表が行われた。

7月28日 平成28年度国土地理院入札監視委員会総会及び第1回定例会議を開催

関東地方測量部において、平成28年度国土地理院入札監視委員会総会及び第1回定例会議を開催した。総会では、委員会の運営に関する説明及び委員長・委員長代理の選出等が行われ、委員長に大久保修平委員、委員長代理に川合竜太委員が選出された。定例会議では、国土地理院が発注した平成27年10月1日から平成28年3月31日までの測量業務、役務の提供等及び物品の製造等の中から委員会が抽出した事案についての審議が行われた。また、定例報告の中で、「請負測量業務の競争入札のための測量技術者の認定資格登録」について審議された。

8月2日 第23回地球地図国際運営委員会に参加

米国ニューヨークの国連本部において開催された第23回地球地図国際運営委員会（ISCGM）に、国土地理院から村上院長、永山企画課長（ISCGM事務局長）ほか2名が出席した。本会合では地球地図国際運営委員会の解散と地球地図データの国連地理空間情報課への移管が決議された。

8月3日～8月5日 地球規模の地理空間情報管理に関する国連専門家委員会第6回会合に参加

米国ニューヨークの国連本部において開催された地球規模の地理空間情報管理に関する国連専門家委員会（UNCE-GGIM）第6回会合に、国土地理院から村上院長ほか3名が出席した。本会合では、地球規模の測地基準座標系（GGRF）の維持に向けたロードマップ及びそれを実施するための作業部会を準委員会に格上げすることや、防災作業部会で策定された戦略的枠組の優先5分野に関する議論が行われた。

8月16日 超高精度の「光格子時計」で標高差の測定に成功

国土地理院及び東京大学大学院工学系研究科の香取秀俊教授（理化学研究所香取量子計測研究室主任研究員）の研究グループは、東京大学（東京都文京区）と理化学研究所（埼玉県和光市）に光格子時計を設置し、2台の時計の相対論的な時間の遅れを高精度に測定することで、2地点間の標高差を5cmの精度で測定することに成功した。

8月22日 第212回地震予知連絡会を開催

関東地方測量部において第212回地震予知連絡会が開催された。全国の地震活動、地殻変動等のモニタリングについての報告が行われ、重点検討課題として「余効変動と粘弾性—日本列島広域地殻活動予測に向けて」に関する報告・議論が行われた。

8月24日 2016年8月24日イタリア中部の地震に伴う地殻変動を解析

8月24日にイタリア中部でMw6.2（USGS）の地震が発生し、地震に伴う地殻変動を把握するため、地球観測衛星「だいち2号」（ALOS-2）に搭載された合成開口レーダー（PALSAR-2）のデータを使用してSAR干渉解析を行った。

8月24日 平成28年度補正予算の政府案が決定

平成28年度補正予算の政府案が閣議で決定され、国土地理院の補正予算案は、総額240百万円となった。

8月28日～8月29日、8月31日～9月1日、9月5日 平成28年台風第11号、第9号及び第10号に係る政府調査団へ派遣

平成 28 年台風第 11 号及び 9 号に係る政府調査団（北海道：8 月 28 日～8 月 29 日）及び台風第 10 号に係る政府調査団（岩手県：8 月 31 日～9 月 1 日，北海道：9 月 5 日）へ大木応用地理部長を派遣した。知事や市町村長との意見交換や被害等箇所の視察を行った。また、各調査団において、被災地の地図の配布や、視察先の地形に関する調査概況についての説明を行った。

8 月 31 日 熊本地震に伴う基準点の測量成果を改定し、公表

熊本地震に伴い、4 月 16 日に公表停止した測量成果のうち、測量を実施した三角点 285 点、水準点 146 点の測量成果を改定し、公表した。また、一部の電子基準点 9 点についても測量成果（標高）を同時に公表した。

9 月 7 日 サマースクール「地図と測量の世界を知る」を開催

地図と測量の科学館において、2016 年度サマースクール「地図と測量の世界を知る」を初めて開催した。本スクールは学部 3 年生以下の地理系大学生を主対象とし、地図や測量に関する興味関心を深め地理研究者・教育者・技術者を志す契機や進路選択に役立てることを目的として開催し、11 大学から 21 名の参加があった。

9 月 12 日 熊本地震に伴う基準点の測量成果を改定し、公表

熊本地震に伴い、4 月 16 日に公表停止した測量成果のうち、測量を実施した三角点 170 点及び水準点 1 点、電子基準点付属標 38 点並びに再計算を実施した三角点 3,598 点の測量成果を改定し、公表した。さらに震源断層周辺を除き、変動前から変動後の測量成果へ補正する座標・標高補正パラメータを公開した。また電子基準点 29 点の測量成果（標高）及び測量成果の公表を停止していた電子基準点付属標 38 点について、改定した測量成果を公表した。

9 月 16 日 企画展「水害を考える」を開催～12 月 25 日

地図と測量の科学館において、企画展「水害を考える」を開催した。過去に発生した水害の事例から、被害が多く発生する地形や土地の特性などを知ることにより、私たち一人ひとりが、日頃から「水害を考え、意識し、そして水害に備える」ことを目的として開催した。

9 月 20 日 第 3 回「国土を測る」意義と役割

を考える懇話会を開催

関東地方測量部において、第 3 回「国土を測る」意義と役割を考える懇話会を開催した。本懇話会では、民間企業における「測る」「伝える」について紹介し、本懇話会における報告書の構成や報告書骨子（案）について、議論が行われた。

10 月 4 日 ギャラリー展「さようなら! つくば VLBI アンテナ～18 年の感謝をこめて～」を開催

地図と測量の科学館において、「さようなら! つくば VLBI アンテナ～18 年の感謝をこめて～」を開催した。本ギャラリー展では、12 月末に運用を終了するつくば VLBI アンテナの歴史とその役割、石岡に設置された最新型 VLBI アンテナへの世代交代について紹介した。

10 月 21 日 平成 28 年 10 月 21 日 14 時 07 分頃の鳥取県中部の地震に伴う地殻変動を観測

10 月 21 日 14 時 07 分頃に鳥取県中部で発生した地震（M6.6，最大震度 6 弱）に伴う地殻変動を、電子基準点で観測した。

10 月 21 日 平成 28 年（2016 年）10 月 21 日 鳥取県中部の地震に伴う地殻変動を解析

10 月 21 日に鳥取県中部で発生した地震（M6.6）について、地球観測衛星「だいち 2 号」（ALOS-2）に搭載された合成開口レーダー（PALSAR-2）のデータを使用して地殻変動量の 3 次元成分の面的分布を明らかにした。また、干渉 SAR の結果と電子基準点による地殻変動観測結果から震源断層モデルの推定を行った。

10 月 22 日 西之島の現地測量を実施～11 月 8 日

2013 年 11 月の噴火以降初めて、西之島の位置の基準として三角点 2 点を設置するなど現地において測量を実施した。

10 月 26 日、10 月 30 日 2016 年 10 月イタリア中部の地震に伴う地殻変動を解析

2016 年 10 月 26 日及び 30 日（UTC）にイタリア中部で相次いで発生した地震に伴う地殻変動を把握するため、地球観測衛星「だいち 2 号」（ALOS-2）に搭載された合成開口レーダー（PALSAR-2）のデータを使用して SAR 干渉解析を行った。

10 月 29 日 鳥取県中部を震源とする地震に

係る政府調査団へ派遣

鳥取県中部を震源とする地震に係る政府調査団へ大木応用地理部長を派遣した。知事や市町村長との意見交換や被害等箇所視察を行った。また、各調査団において、被災地の地図の配布や、視察先の地形に関する調査概況についての説明を行った。

11月4日 つくばVLBIアンテナの運用修了 ～11月5日 に伴う公開イベントを実施

国土地理院構内の12月末に運用を終了するつくば VLBI アンテナにおいて公開イベントを実施した。本イベントでは、約1,700名の来場者があり、VLBI アンテナ駆動や施設の見学を行った。

11月7日 衛星測位システムに関する国際 ～11月11日 委員会第11回総会(ICG-11)に 参加

ロシア連邦ソチ市で行われた衛星測位システムに関する国際委員会第11回総会(ICG-11)に辻測地観測センター長が参加した。総会では衛星測位システム(GNSS)や補強システムの提供国、GNSS利用に関連する国際機関等が一同に会し、GNSSの互換性の確保、衛星測位技術の普及促進や情報交換等を行っている。国土地理院から辻測地観測センター長が日本のGNSS連続観測網であるGEONETを用いた測地基準系の構築と、GEONETのリアルタイム解析結果を用いた津波予測支援への貢献について報告した。

11月10日 都市圏活断層図を公開

都市圏活断層図として、石川県の森本・富樫断層帯とその周辺「鶴来」、埼玉県の綾瀬川断層帯とその周辺「鴻巣」、岡山県的那岐山断層帯(山崎断層帯)とその周辺「津山東部」、山口県の菊川断層帯とその周辺「下関北部」・「宇部」の5面を整備し公開した。

11月11日 第213回地震予知連絡会を開催

関東地方測量部において第213回地震予知連絡会が開催された。はじめに全国の地震活動、地殻変動等のモニタリングについての報告が行われ、続いて、重点検討課題として「南海トラフ地震」に関する報告・議論が行われた。

11月13日 2016年11月13日ニュージー ランドの地震に伴う地殻変動を解 析

11月13日にニュージーランドで発生した地震に伴う地殻変動を把握するため、地球観測衛星「だ

いち2号」(ALOS-2)に搭載された合成開口レーダー(PALSAR-2)のデータを使用してSAR干渉解析及びピクセルオフセット解析を行った。さらに、それらの結果を利用して、地殻変動量の3次元成分の面的分布を明らかにした。その結果、複数の断層が複雑に入り組んだ地殻変動と最大約10mに及ぶ隆起を検出した。

11月16日 UJNR地震調査専門部会第11回 ～11月18日 合同部会を開催

米国ナパにおいて、UJNR地震調査専門部会第11回合同部会を開催した。日本側から21名、米国側から45名が参加し、国土地理院からは鹿野参事官ほか3名が出席した。両国の研究者により68件の報告が行われた。

11月22日 11月22日05時59分に福島県 沖で発生した地震に伴う地殻変 動を観測

11月22日05時59分に福島県沖で発生した地震(M7.4, 最大震度5弱)に伴う地殻変動を、電子基準点で観測した。

11月24日 平成28年鳥取県中部の地震に伴 い測量成果を停止した電子基準 点の改定成果を公表

10月21日に鳥取県中部で発生した地震に伴い、測量成果の公表を停止していた電子基準点の測量成果を改定し公表した。

11月24日 電子基準点データ提供の拡充

験潮場等に設置した電子基準点34点について、GPSの信号に加えて準天頂衛星及びグロナスの信号を含む観測データ提供を開始した。また、マルチGNSSに対応した新しいフォーマットであるRINEX ver. 3.02形式による電子基準点観測データ(GPS+準天頂衛星+グロナス+ガリレオ)の提供を開始した。

11月24日 「地理院地図パートナーネット ワーク会議」を開催

地理院タイルをはじめとする地理空間情報の活用推進のため、国土地理院、受託開発者、ツール提供者が参加する地理院地図パートナーネットワーク会議を開催し、情報共有や意見交換を実施した。

11月24日 G空間EXPO2016が開催 ～11月26日

日本科学未来館(東京都江東区)において、G空間EXPO2016が開催された。本EXPOは、地理空

間情報の最先端技術やサービスを集結し、未来をつくる日本の技術やサービスを紹介するとともに、新たな技術やサービスの創出、民間事業者等の提案や創意工夫を掘り起こす場として産学官の連携により開催され、3日間で19,138人の入場者があった。国土地理院は、Geo アクティビティコンテスト、第6回地理院地図パートナーネットワーク会議、シンポジウム及びパネル展示等を実施した。

11月29日 輪島駿潮場が「登録有形文化財(建造物)」に登録

輪島駿潮場は、「陸地測量部が設置した駿潮場で我が国における潮位観測の歴史を伝える建築物」であり、「古くから重要な港湾都市であった輪島において、地域の歴史を伝え、能登地域に残存する最初期の近代建築として貴重な建物」であるという理由で「登録有形文化財(建造物)」に登録された。

11月29日 「第17回いばらき児童生徒地図～12月11日 作品展」を開催

関東地方測量部は、いばらき児童生徒地図研究会の事務局として、身のまわりの環境や地域、地図に対する関心を深めてもらうことを目的に、茨城県内の小・中学生を対象として「第17回いばらき児童生徒地図作品展」を開催し、応募作品185点のうち優秀な作品50点を展示した。

11月30日 防災アプリ大賞を決定

水管理・国土保全局と共に、内閣府等と協力して、防災に関する地理空間情報の活用とオープンデータ化を推進するため、スマートフォン等で動作する防災に役立つアプリケーションの公募を行った。国土交通省が提供している「地点別浸水シミュレーション検索システム(浸水ナビ)」を効果的に活用した防災アプリの公募を6月に行い、防災アプリ大賞1点、防災アプリ賞4点を決定した。

12月1日 「磁気図2015.0年値」を公表

最新の全国地磁気情報を表した「磁気図2015.0年値」を公表した。

12月9日 第4回「国土を測る」意義と役割を考える懇話会を開催

関東地方測量部において、第4回「国土を測る」意義と役割を考える懇話会を開催した。本懇話会では、これまで開催した3回の会合での意見等を踏まえた報告書(案)について、取りまとめの議論が行われた。

12月20日 平成28年度国土地理院入札監視

委員会第2回定例会議を開催

関東地方測量部において、平成28年度国土地理院入札監視委員会第2回定例会議を開催した。国土地理院が発注した平成28年4月1日から平成28年9月30日までの測量業務、役務の提供等及び物品の製造等の中から委員会が抽出した事案について審議が行われた。

12月21日 地理院地図の利便性を向上

地理院地図で、海外の地形の3D表示サービスを開始した。また、空中写真について、国土地理院が保有する複数種類の写真を組み合わせたシームレス空中写真を公開した。

12月22日 平成29年度予算の政府案が決定

平成29年度予算の政府案が閣議で決定され、国土地理院の予算案は、総額96.1億円となった。

12月22日 応急復旧対策基図を刊行

熊本地震において、土砂崩壊や建物倒壊等の甚大な被害が生じた地域204km²について、地形の変化や仮設住宅の現況などを正確に反映した縮尺1/2,500の応急復旧対策基図を刊行した。

12月29日 平成28年12月28日21時38分の茨城県北部の地震に伴う地殻変動を観測

12月28日21時38分の茨城県北部の地震(M6.3, 最大震度6弱)に伴う地殻変動を、電子基準点で観測した。